

- 10:13 しかし、あなたはこれらのことを御心に秘めておられました。私はこのことがあなたのうちにあるのを知っています。
- 10:14 もし、私が罪を犯すと、あなたは私を待ちもうけておられ、私の咎を見のがされません。
- 10:15 もし、私が罪ある者とされるのなら、ああ、悲しいことです。私は、正しくても、私の頭をもたげることはできません。自分の恥に飽き飽きし、私の悩みを見えていますから。
- 10:16 私の頭が上がると、あなたはたける獅子のように、私を駆り立て、再び私に驚くべき力をふるわれるでしょう。
- 10:17 あなたは私の前にあなたの新しい証人たちを立て、私に向かってあなたの怒りを増し、私をいよいよ苦しめられるでしょう。
- 10:18 なぜ、あなたは私を母の胎から出されたのですか。私が息絶えていたら、だれにも見られなかったでしょうに。
- 10:19 私が生まれて来なかったかのように、母の胎から墓に運び去られていたらよかったものを。
- 10:20 私の生きる日はいくばくもないのですか。それではやめてください。私にかまわないでください。

- 私はわずかでも明るくなりたいのです。
- 10:21 私が、再び帰らぬところ、やみと死の陰の地に行く前に。
- 10:22 そこは暗やみのように真暗な地、死の陰があり、秩序がなく、光も暗やみのようです。」

ヨブ記も他の旧約聖書と同じように、解釈が難しい書です。それは福音がまだないからです。ですから「もしも十字架のイエス様だったら、ヨブに何と言われるだろうか」と想像するのが良いでしょう。

ヨブは「咎を見のがされません」と言い、神様が恐ろしい存在であるように感じます。またさらに「私が息絶えていたら」「かまわないでください」と言い、神様との関係を絶ちたいとさえ思っています。

しかしイエス様はそのような人のためにこそ十字架ですべてを負ってくださったのです。神を恐れるとき、神様から離れようとするのではなく、十字架のゆえにイエス様により近づきましょう。それこそが、逃れの道であり、安心であり、神様の恐れから解放される道です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

